

はじめに

福祉の入門、 それが福祉住環境コーディネーターの勉強です

現在、日本はかつてない勢いで超高齢社会に向かっています。私たちが小さかったころ、おじいちゃん・おばあちゃんは少数派でした。今ほど平均寿命が高くなかったので、すでにおじいちゃん・おばあちゃんが亡くなっている友だちもいました。

しかし、このまま高齢化が進むと、なんと2050年には総人口の3分の1が65歳以上の高齢者になってしまうのです。このような状況のもとでは、必然的に「世の中をお年寄りに合わせていく」ことが必要になってきます。

例えば、お年寄りが病気になる、本人だけでなく家族にも大きな負担がかかってきます。特に、家の構造が介護しにくいものになっている場合、家族の精神的、身体的負担はさらに増大します。

車いすの生活になった時に、廊下の幅が狭かったらどうでしょうか。また、トイレやお風呂でさっと、つかまることのできる手すりがあるだけで、高齢者の日常生活は快適になります。どうせ家を建てるのなら、はじめから高齢者の生活に対応したものにしようが、長い眼で見た場合、得策です。誰もが行く道なのですから。

今の日本においては、まだまだ「老いること」＝「マイナス」というイメージでとらえられています。それは、現在の日本の家の状況やその他の社会事情が高齢者対応になっていないためです。

高齢化社会を迎えるにあたっては、「老いることはマイナスではない」と価値観の転換を図ることが必要です。そのためには、いろいろなインフラを整備するとともに、「老いることとは具体的にど

のようなことか」「高齢者にとって必要な施設とはどのようなものか」など、たくさんの方のことをみんなが学ぶ必要があるのです。

このような高齢社会に「生きる知恵」を学び、実践するのが福祉住環境コーディネーターです。

本書は 福祉住環境コーディネーターについて知りたい人 福祉住環境コーディネーター検定試験の具体的な内容を知りたい人
すでに学習を開始している人、のために執筆しました。

私は自分が担当する福祉住環境コーディネーター講座で、多くのステキな受講生と出会うことができました。「こういう勉強をしておけば、おふくろのことを、もっとちゃんと面倒見てやれたかなあと思って」と、いつも一番前の席で熱心に講義を聴いてくれた背広姿の男性が、合格後に受講の理由を語ってくれました。勤務明けで眠い目をこすりながら、時には眠ってしまい、ハッとして頬をぱちぱち叩きながら頑張っていた看護師さん、さらなるスキルアップを目指す設計事務所勤務のキャリアウーマン、福祉の道を志す心優しい主婦や学生さん、などなど。この人たちに合格してもらうために私ができることは、効率よく少しでも短い学習期間で合格するためのノウハウを提供していくことだと考え、講師を続けてきました。教室ではお会いできない皆さんにも、本書を通じてそのノウハウをお伝えしたいと思います。

「合格」はみなさんの夢への入り口です。決してゴールではありません。入り口の向こうにある大きな夢へのスタートラインです。さあ、まずはスタートラインに立ちましょう。

2003年6月 著者